

- <保育者> 4歳児 さくら組 担任 中山 優佳 教諭 補助 松永 智枝 教諭
 <研修テーマ> 「やりたい！」が発揮できる子を育てる
 <ねらい> ・保育者や友達と一緒に水を使った遊びを楽しむ。
 ・保育者や友達と一緒に、新聞遊びやバスごっこ等で体を動かして遊ぶことを楽しむ。

伝えたい！この感動

きれいに並んだ様々な道具から、必要な物を自分で選び、テーブルへ運ぶ子ども達。作った泡に、絵の具を混ぜて、イチゴ味、チョコ味…とイメージが膨らみます。いつもは砂場で遊んでいる年中児も、聞こえてくる年長児の楽しそうな声と保育者の自然な誘いかけにより、泡の感触を楽しみました。そして、輪にした指に息を吹きかけ、シャボンの泡が大きくなった！すぐに、保育者に伝えに行きます。そこには、子どもと保育者が、感動を共有する姿がありました。



チョコの色にするには、何色を混ぜたらいいんだろう？



とろとろのあわをつくるぞ！

見てー！！



きょうりゅうとバスの物語！

年中児は、それぞれ自分の好きな遊びに熱中しています。きょうりゅうが大好きで、お面を付けてきょうりゅうになりきる子。バスが好きで、帽子をかぶり運転手さんになる子。「バスに乗ってきょうりゅうさんの食べ物を作りに行く」というストーリーを、子ども達と一緒に楽しむことで、それぞれの「好き」が繋がり、子ども達の関わりが生まれていました。

きょうりゅうさんに見つかったら…



きょうりゅうさんにながすきかな。

事後研修会（講師：静岡大学教育学部 教授 田宮 縁氏）



- ・クラスに支援を必要とする子どもが多いときに、過去の〇歳児をイメージして同じねらいや活動を目指すと、子どもも保育者も苦しくなる。〇歳児の基準にとられすぎず、目の前の子どもの実態に合ったねらいや活動にすればよい。
- ・一人一人に適切な支援ができるように、ねらい(個別の支援計画)をきちんと考えていたい。
- ・個の「やってみたい」を満足できる環境を準備したい。



幼稚園、保育園、小学校の先生方が同じ保育を見て、様々な視点で語り合いました。